



日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98.5.28 No. 4793

東京地裁民事11部 民事19部の政治的 反動判決を弾劾する!

(一)
本日、東京地裁民事11部・19部は、採用差別事件の中労委命令をめぐって、国労とJRが争ってきた行政訴訟について、一〇四七名のJR採用を求める国労の訴えを却下し、中労委命令を全面的に取り消す反動判決を下した。

この判決は、国家ぐるみの不当労働行為を居直り、真実を偽造する政治的反動判決であり、一〇四七名闘争団の血のにじむような闘いと訴えを踏みこむ歴史的暴挙である。われわれは、満腔の怒りを込めて、反動判決を弾劾する。

(二)

とくに、民事11部の判決は、①「採用に関して不当労働行為があったとしても、その使用者としての責任は、国鉄が負うべきものであって、設立委員(JR)が負うべきものではない」、②「職員の採用に関する国鉄の立場は、設立委員の補助機関の地位にあったとは言えない」、③「国鉄とJRとの間に実質的な同一性があるのかも疑問である」、④「不当労働行為の救済が一定の制約を受ける結果になつたとしてもやむを得ない」、⑤「救済が実質的に否定される結果となつたとしても、憲法28条やILO条約、国際人権規約に違反するとはいえない」と主張している。まさに怒りなしに読むことのできない内容だ。判決は、「採用候補者の選定は、国鉄の責任と権限で行つた

ものであり、設立委員は、その名簿のなかから採用者を決定する権限があるに過ぎなかった」と述べている。しかし、そもそもJRの設立委員には、杉浦国鉄総裁が就任するなど、採用差別事件は、その実体から言っても、まさに政府・国鉄・JRが一体となつて強行した、国鉄労働運動解体のための不当労働行為であつたことは、何人も否定することができない事実である。ところが東京地裁は、黒を白と言いくるめ、「設立委員は、採用候補者の選定や名簿作成を決定することができると地位にはなかつた」と断じたのだ。

しかもこの間、民事11部は、政府の国労解体攻撃の窓口となつて、国労を「和解路線」に引き込む手先となり、JRの拒否にあつたや、今度は、労働委員会が認定した不当労働行為の実態審理にも入らないまま、「JRが使用者としての責任を負うか否かの中間判断を行う」と称しつつ、JRの責任を全て否定し、国労の主張を却下して、本日の判決を最終判決としたのである。一方、民事19部の判決も、「採用候補者の名簿作成にあつた国鉄が組合差別の意志で、国労組合員を除外したことを、JRの設立委員が知りながら、これを容認する意志で是正を命ずることなく放置したなら、設立委員が責任を負うべきである」としながら、「中労委が命ずることのできる救済措置は、採用手続きのやり直しが限度であり、採用を命ずることはできない」と言つて、中労委命令を全面的

に覆した。まさにベテンとしか言いようのない判決だ。

(三)

本日のふたつの判決は、国労・国鉄労働運動の解体に向けた国家権力の意志に貫かれた、裁判の名にもあたらない、政治的偽善である。敵は、様々なペテンを弄して、幻想を煽りながら、結局、本日の判決をもって、国鉄分割・民営化攻撃の本質をむきだしにしたのだ。これは、国鉄闘争を解体するためには問答無用で臨むことを宣言した、政府と裁判所が一体となつた重大な攻撃である。

また、本日の判決は、労働委員会制度と労組法そのものを否定するに等しい重大な挑戦でもある。東京地裁は、全ての労働委員会が一致して認定したJRの不当労働行為責任を一刀両断のもとに斥け、労組法七条の使用者性の法理、不当労働行為救済の法理を排斥した。この判決には、国鉄闘争のみならず、労働委員会制度と労組法をも解体し、労働者の諸権利を奪い尽くそうとする橋本政府の意図が貫かれていく。今国会に上程されている労基法の改悪や有事立法制定策動とも期を一にした重大な攻撃である。

われわれは、闘いの原点に戻り、全ての労働者の未来のために、反動判決を弾劾し、あくまでも政府とJRの責任を追及し、反撃に立ちあがる決意である。

(四)

しかし、本日の反動判決のか

ら透けて見えてくるのは、一〇四七名闘争団を先頭とした11年に及ぶ不屈の闘いの前に追いつめられた橋本政権の姿である。改めて言うまでもなく、国鉄分割・民営化攻撃は、戦後労働運動の大転換・解体を狙う、きわめて大がかりな攻撃であつた。今日までとうとう不屈の闘いが続くなど、誰が予測しえたであろうか。敵は、国鉄労働運動の解体に失敗し、闘いは、87年の分割・民営化攻撃の原点に戻つた。闘いはこれからだ。橋本政権は、10年前とは比べものにならない危機にあえいでいる。一片の反動判決で、11年間貫かれた闘いをつぶすことなど絶対にできない。大失業時代が到来し、労働者の怒りの声は地鳴りのように響いている。インドネシアの民衆はスハルト体制を打倒し、韓国の労働者は果敢にストライキに立ちあがっている。JR体制も矛盾を噴き出させている。一切は力関係によってしか決まらない時代が到来している。橋本政府は恐れているのだ。橋本政府に依拠した和解路線に対する回答は今日の反動判決であつた。闘いの原点に立ち戻ろう。11年間の勝利の地平に確信をもって、一〇四七名の闘争団を先頭に、強固な団結を組み直そう。JRとJR総連の結託体制を打ち倒すために、全組合員の力を結集して立ちあがろう。全ての労働者の怒りの声の先頭にたつて、闘う労働運動を創りあげるために闘おう。今日5・28を新たな怒りの日として立ちあがろう。